

令和4年度 工芸センターの施策概要(当初予算)

工芸センターの取組の方向性

木工芸及び窯業の生産技術の向上並びに品質改善等の研究、指導を通じ業界の支援を行い、技能・技術面を重視した人材育成並びに情報の収集及び提供を強化するとともに、関係業界、他機関と連携を深めながら各種展示会の開催支援を行うなど、販路拡大へ向けた事業を推進する。

**業界が抱える課題**

- ・技術者の高齢化、若手人材の不足
- ・優れた技術、技能の若手技術者への継承
- ・自社製品開発への資本が不足がち
- ・新規の販売ルート開拓が困難

**ものづくり分野の環境**

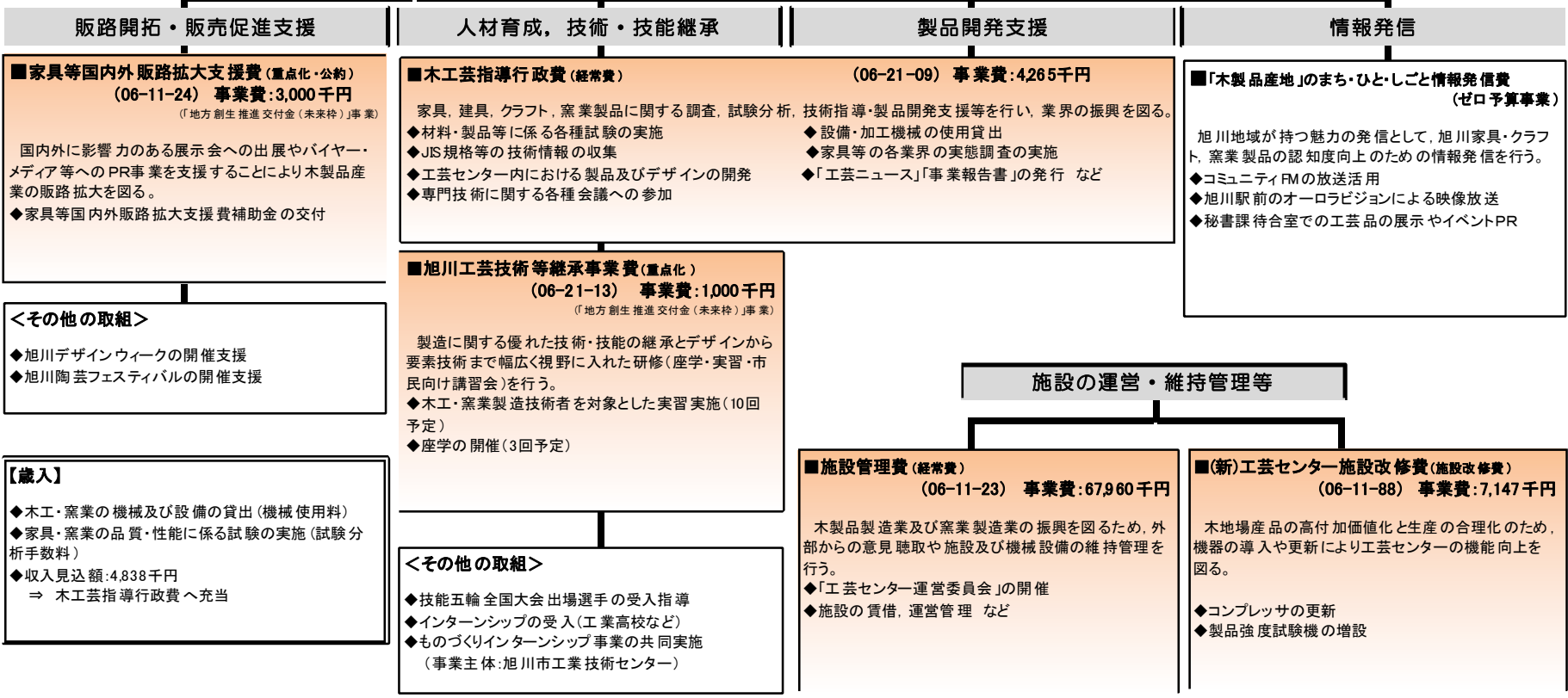
- ・生産年齢人口の減少
- ・海外生産による商品の低価格化の固定
- ・生産や管理のロボット化 (IoT, AI)
- ・木材、長石などの原材料の高騰や枯渇

家具・建具・工芸品等・陶磁器製造業 実態調査結果(推計値)の推移  
(単位:事業所,人,百万円)

		H28	H29	H30	R1	R2
家具	事業所数	89	97	95	92	87
	従業員数	1,355	1,437	1,398	1,402	1,396
	総売上高	14,428	15,031	15,126	15,170	14,253
建具	事業所数	24	23	22	21	21
	従業員数	143	137	176	136	141
	総売上高	1,920	2,192	2,244	2,053	1,816
工芸品等	事業所数	-	54	-	47	-
	従業員数	-	125	-	119	-
	総売上高	-	746	-	730	-
陶磁器	事業所数	-	40	-	40	-
	従業員数	-	60	-	55	-
	総売上高	-	115	-	83	-

調査地域:旭川市,東川町,東神楽町  
※「工芸品等」は鷹栖町,「陶磁器」は美瑛町,鷹栖町,当麻町を含む。

具体的な施策の展開



# 旭川家具産地PR支援費（予算額 6,300千円）

## 現 状

- コロナの影響により、展示会や見本市の中止、営業活動や商談等の縮小などが相次ぎ、旭川家具業界の売上が減少している。

< 推計売上高 >	(R元年度)	(R2年度)
家具	約 152 億円	約 143 億円 ( - 6 % )
建具	約 21 億円	約 18 億円 ( - 15 % )

## 目的・概要

- 羽田空港内のイベントスペースにおいて旭川家具の展示を行い、多くの来訪者にその魅力を感じてもらうことで、旭川家具のファンを増やし、消費拡大につなげていく。
- 家具展示に合わせて、国際家具デザインフェアや、ユネスコデザイン都市への認定等を紹介することで、旭川家具ブランドの付加価値を高める。

## 事業内容等

- 会 場 羽田空港第1ターミナル2階出発ロビー  
マーケットプレイス中央イベントスペース（予定）
- 期 間 令和4年10月上旬（予定）
- 事業主体 旭川家具工業協同組合を想定
- 内 容
  - ・旭川家具・クラフト等の展示
  - ・国際家具デザインフェア、ユネスコデザイン都市旭川の紹介(パネル)
  - ・製品カタログ等の配布
  - ・解説員による説明、商談
- 実施方法 旭川市より、実施主体となる旭川家具工業協同組合へ補助金を支出
- 予 算
  - ・補助金 6,000千円 (10/10)
  - ・旅 費 300千円



## 輸出家具製品等開発支援費（予算額 14,823 千円）

### 【目的】

「大型恒温恒湿試験機」の導入により、家具業界が進める海外向けの新製品開発や販路拡大などの意欲的な取り組みを支援することで、アフターコロナにおいても選ばれ続ける家具産地づくりを目指す。

### 【事業の目的】

○現在欧米諸国を中心に、コロナ禍でのリモートワークの普及や、住環境を充実させようとするうごきが広がりをみせており、これにあわせた住宅新築やリフォーム、大型家具類（テーブルや半屋外用家具など）の導入が進んでいる。ポストコロナ時代の経済活動のV字回復も見据えたこれらのうごきは、欧米諸国等においては日本よりも強力かつ先駆的に進んでおり、こうした中で旭川家具のシェアを拡大していくため、旭川家具業界は海外向け製品の開発に力を入れている。これらの開発に当たっては、大型試験機による実物大試験の実施が必須となる。

○またコロナの影響等による外国産木材の輸入量激減に対応するため、従来材に替わる新たな材の利用に向けた研究等も進んでおり、工芸センターとしても、公設試験研究機関として、未利用材使用時の品質性能等に関する試験体制を整えておく必要がある。

○こうした状況を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用により、大型試験機の導入を行うおとするものである。



大型恒温恒湿試験機のイメージ

### 【概要】

○大型恒温恒湿試験機は、実物大の家具製品の温湿度変化による膨張収縮などの影響を試験する機器で、主に輸出時の海上コンテナ輸送中などの過酷な温湿度変化に対する製品の耐久性や品質性能を確認する試験機である。

○恒温恒湿試験は、海外輸出を前提に新規開発される家具には必須ともいえる試験であるが、現在工芸センターでは実物大の製品試験は行えず、やむを得ず小型の試験機により部材単位での試験を行っている状況である。

○近年小型試験機による試験依頼件数は大きく増加しているが、実物大の製品を用いた試験と比較し試験結果の正確性や原因究明のためのデータが不足するため、家具業界からも早期に実物大試験が可能な大型試験機の導入を求める声が多く寄せられている。

（参考）小型試験機の使用日数

令和3年度	36日
令和2年度	87日
令和元年度	83日
平成30年度	35日
平成29年度	15日
平成28年度	0日
平成27年度	26日

### 【予算内訳】

試験機購入 14,537,600円（備品購入費）  
 既存機器廃棄処分 209,000円（委託料）  
 既存機器フロン回収 75,790円（委託料）